

第1B(小)分科会 教育課程に関する課題

提案主題 新学習指導要領スタートに向けて

サブテーマ ～教育課程の組織的改善～

協議の柱 新しい教育課程編成において、組織的に改善していくために、教頭としてのリーダーシップはどうあればよいか。

提言者 大分市立植田小学校 清水 敬

1 質 疑

- (1) Q 学校規模や地域にもよるが、組織的な取組とはどうあるべきか。
A 教務主任との連携が、第一である。その後、各主任との会議などをする。
- (2) Q 郡市独自の取組は、どのようなものがあるか。
A 6年生による「卒業プロジェクト」がある。
学校規模によっては、「全校総合」「学年総合」がある。

2 協 議

- (1) 様々な問題があるが、各学校でカリキュラムマネジメントを説明し実行していく必要がある。教育課程編成については、例えば小規模校は市全体で取り組んでいるところもある。いずれにしても教務主任との連携が大事である。
- (2) 全職員で学校教育目標の共有をどうしていくかがまず大事である。また、小中・地域で違いがあるが、教務主任が本来の仕事を取り組むようアドバイスしていくことも重要である。
- (3) 今回の教育課程編成では、総合的な学習において探求的な活動をしているかを考えて編成しなくてはならない。しかし、まだまだ不十分な部分がある。また、教育活動を実践していく中で、PDCAサイクルを機能させて運営していくことも各学校で行わなければならない。

3 指導助言

- (1) 今回の新学習指導要領で重要なことは、社会の変化に対応し主体的に生きる子どもの育成である。このことを学校現場で実践していく。例えば学力調査で応用力が低いとの結果が出た場合、カリキュラムを改善しないとイケない。学校教育目標についても、従来の知徳体に加え、今回の学習指導要領で示された3つの資質・能力を踏まえた見直しをしなければならない。
- (2) 学校力UPの提言内容であった。現状の課題意識・人材育成・スケジュール管理と管理職としてのマネジメントが優れている。ビジョンの明確化や校務分掌の改革は不可欠である。
- (3) 「開かれた学校」と「社会に開かれた教育課程」の違いを認識しなくてはならない。これからは、カリキュラムも含めた情報提供をしていくべきである。例えば、PTAや地域の方と一年間の取組を論議していくことも一つの方法である。